令和６年度第２回大分県総合教育会議 議事要旨

【日 程】

日 時　令和６年１０月２５日（金）

開会1６時00分　 閉会1７時０0分

場 所　県庁本館４階　第一応接室

【出席者】

総合教育会議構成員 大分県知事　　　　　　　　　佐 藤 樹 一 郎

大分県教育長　　　　　　　　山 田 雅 文

大分県教育委員　　　　　　　岩 崎 哲 朗

大分県教育委員　　　　　　　高 橋 幹 雄

大分県教育委員　　　　　　　鈴 木 恵

大分県教育委員　　　　　　　岩 武 茂 代

大分県教育委員　　　　　　　岡 田 豊 弘

【協議事項】

（１）フリースクールとの連携強化による不登校児童生徒支援施策の充実について

【発言要旨】

協議事項（１）フリースクールとの連携強化による不登校児童生徒支援施策の充実について

（要旨）

・不登校の状態からそのまま引きこもりになってしまうケースもあり、不登校対策の支援は必要である

・県がフリースクールに係る支援を行うにあたっては実態をしっかりと把握する必要がある

・学校に繋がりながら復帰することを目指せるため、不登校対策の第一歩として校内教育支援ルームの充実は非常に重要。小学校段階からの切れ目のない支援が不登校防止につながる

・中学生不登校生徒約2,000人のうち、教育支援センターにもフリースクールにもどこにも通えていない生徒の割合が46％。この部分に対して何らかの支援が必要。（山田教育長）

・不登校の子どもが登校できるようになったり、あるいは通信制や他の学校などに通うようになるなど再び輝ける子がいる一方で、引きこもりになり世の中で活躍できなくなるというケースもある。そういう意味で不登校対策の支援はしっかりやっていくべきところ。（佐藤知事）

・フリースクールは不登校児童生徒にとって良い居場所になりうるが、運営実態が様々であるた

め、支援するにあたっては内情をしっかり把握すべき。（高橋委員）

・校内教育支援ルームに通うことができれば、学校に繋がりながら復帰できる。不登校施策をまんべんなく実施することが理想的だが、支援ルームを充実させることが不登校対策の第一歩。（岩武委員）

・学校に行けていないと児童生徒自身の自己肯定感が下がる。それが一番の問題になっていく。不登校は幼少期から始まるため、切れ目のないサポートが不登校防止につながる。（岡田委員）

・集団行動が苦手など、特性が強く不登校であった児童生徒にも、先生たちが児童生徒の個性に応じて支援することで成果が出ている（鈴木委員）

・時代も変わり、画一的な教育ではなく、保護者は個性を大事にすることを当たり前に考えている。学校の先生たちもそれぞれの子ども達がどうやったら一番輝くかということを柔軟に考えて対応している（岩崎委員）

以上